

1 **研究構想及びこれまでの取組** 別紙パワポ資料

2 **令和6年度の取組**

(1) 検証

- ① 令和5年度に引き続き6年度も市、全国学調の記述式問題における「無回答率」、「正答率」を追っていく。
- ② 1学期末の公開授業(数学)及び各教科で、任意の単元における目標達成率(いわゆるb以上)を出す。
 ➡ 「明確なゴール設定。言語活動を通じた資質・能力の育成。」に対して、評価基準をもとに生徒の学びを見取り、bをクリアした生徒数(パーセント)を把握する。
 ※公開する授業は、単元終末で、言語活動の場面。

(あ) **6、7月〇日(〇) 6校時 石田浩詩さんの授業を全教員で参観し、検証する。**【短縮、朝読：掃除なし、公開学級以外は自習、部活なし】

- 研究構想の具体(「意見や思いを表現する活動」)を共有する。
- 1人が生徒一人の学びを見取り、評価する。
- 研究協議では、数学の資質・能力を付けるために、次の設定は適切だったかを生徒の具体的な姿を基に話し合う。
 ・言語活動はゴールに近づくために有効だったか
 ・本時の評価(形成的評価)は適切だったか

(い) **11月20日(水) 意見や思いを表現する活動を通して、教科の資質・能力を育成する。また、それを検証する場とする。**【5時間目 授業、6時間目 教科部会】

日にち	11月20日(水)又は任意の日
教科	全教科
案内範囲	県内小中学校、出雲市内の高等学校

同日公開の研究会を実施すると、担当教員が1、2人の教科や前期後期制の教科は、運営が困難な場合がある。そのため、今年度は、全ての教科で任意の日にちを選んで研究会をすることとする。ただし、**数学と理科は11月20日に開催する。**

4校時	12:00 ~ 12:50
給食	12:50 ~ 13:25
終礼	13:35 ~ 13:45
※公開クラス以外は下校	
公開授業	14:15 ~ 15:05
協議・教科部会	15:15 ~ 16:45

【参考】
フォローアップ2年目:藤原隼(国)、日野(社)
フォローアップ3年目:小田川(理)、松本(英)
6年目研:岸(音)
※この時に初任研の公開と重ねない。

4月30日までに	授業者決定【入力場所】U:➡R6➡B 研究➡研究部会➡『秋フェス授業者』
夏休み~2学期	教科部会(事前研究、指導案審議等)
10月24日(木)	指導案完成後、研究部に提出➡研究部で起案➡各指導主事に送付する

- (2) 教科部と一緒に授業を見に行き(県外も含む)、目指す授業像を共有する。
 ・**8月末日まで**に、見たい授業を探し、申請する。(日にち、場所、参加人数) ➡須田へ

今年の対象教科:保体、音楽

研究テーマ

主体的に課題を見つけ、互いに高め合いながら、自ら行動する生徒の育成

めざすところ

各教科の資質・能力の育成
～ゴールを明確にし、意見や思いを表現する活動の充実～

1 研究の概要

(1) 研究主題について

本校の生徒は、全体的に学習に熱心に取り組み、自分の目標に向けて努力する姿が見られる。しかしながら、主体的に学習に取り組む点においては、令和4年度4月に実施した出雲市学力調査の結果を見ると、学力調査のポイントが下位層の生徒は、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」と回答した割合が、上位層及び中位層と比べ大きく下回った。

生徒たちが本校を卒業し、社会に出る5年後、10年後の未来は、今よりもっと少子高齢化が進み、グローバル化の進展、技術革新などにより、社会構造や雇用環境は急速に変化していると予想される。そのような予測困難な社会を生き抜く担い手として、他者と協働して課題を解決する力、様々な情報を見極め新たな価値につなげる力、複雑な状況の中で物事の目的を見出す力などが求められるだろう。これらの力を身に付け、生徒一人一人が幸せに生きていくためには、中学生である今から、主体的に課題を見つけ、互いに高め合いながら、自ら行動することが重要だと考え、本主題を設定した。

(2) めざすところについて

令和3年度に全面実施となった中学校学習指導要領総則編には、今回の改訂の趣旨が教育課程の編成や実施に生かされるようにする観点から、主に3点の改善が整理されている。その中に、『資質・能力の育成をめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をすすめる』とある。

そこで、私たちは各教科の資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成をめざすために、学習の基盤となる言語能力（「意見や思いを表現する活動」の充実）に着目して授業改善を図ることとした。

また、令和3、4年度の市及び全国学力学習状況調査結果分析からは、次のような生徒の実態が見えてきた。

【意識調査の結果より】自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりしているという問いに対し、肯定的に答えた生徒の割合は全国に比べ4ポイント以上回る。

【教科の結果より】

- ・令和3年度国語の調査において、自分の考えを表現する問題の平均正答率が全国に比べて下回る。
- ・令和3年度数学及び令和4年度英語の調査において、記述式問題によっては無回答率が3割程度ある。

話し合い活動をしっかりと行っていると感じている生徒が多くいる反面、教科で表現する力が付いているか疑問が残ることを示している。こうした生徒の実態を踏まえ、前述した「意見や思いを表現する活動」をとおして、各教科が求める資質・能力を育成することとした。

2 研究仮説

ゴール達成時の生徒の具体的な姿を明確にして、意見や思いを表現する活動を充実させれば、各教科の資質・能力を育成することができるであろう。

3 研究の方法

(1) 「めざすところ」を共有するための全教職員による研究授業及び研究協議

①ゴール達成時の生徒の具体的な姿を共有する。（他教科教員でも評価ができるような具体的な姿を設定する。）

「おおむね満足できる生徒の具体的な姿」、「十分満足できる生徒の具体的な姿」

②全教職員で一人一人の生徒を見取り、評価をする。

③協議では、生徒の具体的な姿について話し合う。（いわゆるaかbか。なぜaの姿になったのかを考察する。）

(2) 各教科のめざすところを話し合い、整理する。

(3) 教科の資質・能力を育成するために、上記(2)に着目した実践をそれぞれの教員が行う。

(4) 教科の代表者が授業を公開し、研究協議をする。

4 令和4年度の実際【めざすところ:各教科の資質・能力の育成 ～ゴールを明確にした指導計画と実践～】

(1) 情報共有のための体制づくり

① 研究部→企画会→教科主任者会→教科部

情報共有や意見交換の場をもった。特に、研究部が考えていること(今年度のビジョンとそれを達成するためのプラン)を伝え、それについて意見交換し、必要であれば研究部で再度検討した。

② 時間の作り方

- ・教務と連携し、時間割の中に組み込むパターン
- ・学年部と連携し、終礼の時間(6校時終了後から部活開始までの隙間)を使うパターン

(2) 令和4年度の「めざすところ」を共有するための全教職員による研究授業【7月1日(金)3年英語】

① 英語科の資質・能力を付けるために、次の設定は適切だったかを生徒の具体的な姿を基に話し合った。

- ・ゴール設定
- ・単元指導計画(どこで知識・技能、思考・判断・表現の指導をするか等)
- ・言語活動と学習評価



② 各教科部で「意見や思いを表現する活動」とは何かを話し合った。



(3) 全教科公開の研究授業及び教科部会【11月17日(木)】

上記(1)②で具体にした「意見や思いを表現する活動」を通して、教科の資質・能力の育成を図った。



参観者のアンケートより(アンダーライン 研究部加筆)

- ・先生が「これはどう考えたの?」と毎回丁寧に聞いておられ、考えを言語化して伝え合う様子が見られたのがよかったです。(数学)
- ・ワークシートに鑑賞をして感じたことや気づいたことを全員が書けていたことに驚きました。書きづらい生徒に対しては、先生が準備された補助シートを参考にできる支援がいいと思いました。それによって、後のペア活動で発言できるので、言語活動にもつながっていると思いました。(音楽)
- ・グループ学習の中での生徒の発言には、エキスパートで得た知識を他のメンバーに分かりやすくうまく伝えようとしている姿がありました。1人ひとりの思考が高まる授業だと思いました。(技術)

(4) 教科部と一緒に授業を見に行き、めざす授業像を共有する。

- ① 筑波大学附属中学校 数学(2名)、英語(3名) ② 広島大学附属高等学校 理科(4名)

5 令和4年度の成果

(1) 全職員での研究授業・研究協議及び教科部会(7月)

① 事後の教職員アンケート結果

今年度、めざすところについて、「自分の実践や教科の取組を考えるきっかけとなった」と回答した割合は、アンケートに答えた教員の86%だった。(右図)

② 各教科の「意見や思いを表現する活動」の明確化

資料1のとおり、7月段階での捉えを話し合い、共有した。



- (2) 各教科の研究授業・研究協議及び教科部会(11月)
 ・各教科の「意見や思いを表現する活動」の明確化 その②
 資料1のとおり、11月段階での捉えを再度話し合い、共有した。

(3) 他校への視察後の授業改善

- ①数学科:生徒が主体的に取り組めるように、実生活とつながりのある課題を提示・設定するようになった。
 ②理科:単元ゴール及び単元計画を大事にし、それを生徒と共有する授業の進め方を意識するようになった。
 ③英語科:生徒の思考を深めるための具体的な発問を考えて単元計画及び一時間を組み立てるようになった。

6 令和5年度の実際

(1) 「めざすところ」を共有するための全教職員による研究授業【6月27日(火)2年理科】

- ①理科の資質・能力を付けるために、生徒の学びについて具体の姿を基に話し合った。
- ・(事実の共有) 生徒の具体を基に、本時のTさんの姿は目標に対してa(十分満足)、b(おおむね満足)またはc(努力を要する)かを話す。
 - ・(自分の考え) なぜaになったのか、どんな教師の働きかけが良かったのか等



②各教科部で次の視点①②について話し合った。

- ①自分の教科で、「意見や思いを表現する活動」とはどんなものか。
 【昨年度整理したもの共有】
- ②自分の意見や思いを深めるための教師の手立て何か。
 【教科で整理】資料1



(2) 1学期末に実施した学校評価の記述より

〈意見や思いを表現する活動の充実又は、話し合いや知識を活用する場面について〉○良かった点▲課題点

- 生徒が説明する時間を意識的にとることができた。
- 少人数の利点を生かして、学活や生活単元学習等で、話し合う場面を設けた。個人で考え、意見をまとめる時間の後、自分の意見を伝え合う場面を設け、自分と異なる価値観や共感できる価値観に触れつつ多様性を学べるようにした。
- 意見や思いを表現する活動を取り入れるだけでなく、表現しやすくなる方法を考え、必要な支援をしたことで活動が充実した。
- 「思い」を表現させる為に、基礎・基本の定着のための課題を単元に盛り込んでいる。
- 相手意識を明確にし、自分の意見や思いを伝え合う活動を行うことができた。
- ▲毎単元の最後に意見や考えを表現する時間を設けるなどもっと計画的にそのような活動を行いたい。
- ▲「主体的」や「対話的」、「深い学び」ということに関しては達成できたか不明であるため、これらを意識して授業を工夫していきたい。
- ▲内容を教え込むような授業になることが多かったように感じている。こちらの説明を減らし、生徒が話し合いの中で答えを見つけていけるような問いを考える必要があると思った。
- ▲主体的な部分の授業改善ができなかった。取組までの時間が長く、対話的などころまでいかず、作業的な学習が増えてしまった。
- ▲授業の核となる部分の前に時間を取り過ぎて、十分な学びにならないときがあった。メリハリをつけながら授業を行うようにしたい。
- ▲意見や思いを表現する活動の「充実」には至っていない。
- ▲言語活動は積極的に取り入れることができたが、「自分の思いを伝えたい」目的・場面・状況の設定が不十分だった。単元ゴールを明確にして、教員も生徒も常にゴールを意識しながら活動に取り組めるようにしたい。
- ▲活動しただけで終わることがないように、中間指導を必ず入れ、子どもたちの資質・能力の向上につながるよう努めていきたい。

【課題点に対する2学期以降の取組(研究部の提案)】

- ・課題(問い)設定(生徒が話したくなる、聞きたくなる課題、話し合う必然性があるもの)で困り感があるように思われることから、次の点について、各教科及び各自の授業で次のことを再度意識して、授業を構成する。
- ①単元ゴール(ゴールを達成した生徒の具体の姿)を明確にする。
- ②本時のゴールイメージと生徒のつまずきの場面と支援を考えつうえて、授業をする。
- ③話し合う目的(共有化、多様化、焦点化・最適化)を明確にした授業計画をする。

	どんな力を育てたいか(教科)	意見や思いを表現する活動	意見や思いとは	教師の手立て	理科の授業を受け、自分の教科に生かせる点
国語	<p>市教委 春日先生のアドバイスにより、生徒を力に変更(R5,6)</p> <p>・最終的には、自分の力で自分の思いや考えを表現できる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読んで、感想を書く。 ・リライト ・短歌、俳句などの鑑賞文 ・単元ごとに考えを書かせる活動を入れる。 ・話し合い活動を入れる。 ・各活動の際に、書き方(型)を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことに基づいた、根拠をもった意見や考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との交流(話し合い) ・いいモデルを提示する ・いくつかの考えを比較させて、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と日常生活の結びつきを考えさせたり、示したりする。 ・既習事項を生かした授業展開 ・学んだ表現を使って文章を作らせる。
数学	<p>・右記のことができる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ?」なのかを根拠をもとに、論理的に説明し合う。そのためには、正しい知識が必要。 ・疑問や予想をもち、根拠をもとに考え、論理的に説明する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとにした論理的な考え 	<p>「なぜ?」や「どのように?」のような問い返しを普段の授業の中に意識的に入れる。</p>	<p>小単元の終わりや、単元の終わりに学習内容を普段の生活やこれまでの学習と結びつける時間を1時間とする。</p>
理科	<p>・右記のことができる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に「思い」はない。あるのは、「考え」である。 ・矛盾なく説明できる。 ・自らの知識を活かした考えを説明できる。 ・なぜそうなるのかを科学的に説明できる。 ★日々の授業での話し合い活動 ★キーワード、型 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かした考え ・科学的な理由(根拠) 	<p>実物や映像を検証する。 説明の仕方</p>	
社会	<p>・社会的事象に興味・関心をもつ力</p> <p>・対話により、自分の考えを深めることのできる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する意見を、根拠をもって説明する活動 ・思考する活動(覚えるだけでなく) ・問いの仕方(一問一答ではなく)・ペア学習、グループ学習をとおして、資料を読み取り、他者の考えをふまえて、自分の考えを表現する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとにした意見 ・資料や他者の考えを基にした自分の考え(再構築) 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の共有の工夫(ホワイトボードの活用、ジャムボードやスカイメニューなどのICTの活用) ・単元を貫く問いの設定 ・生徒の意見に対する教師の働きかけ、問い返し、(比較、関連付け、分類)など視点を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を身近なものにつなげて、理解を深めていくこととする点 ・生徒の意見を取り上げ、意見について考えていく手法。
技術	<p>自ら問題を見出して、課題を設定し、それを解決する力や技術を工夫し創造しようとする力の育成</p>	<p>技術の見方、考え方を働かせ、問題の発見、課題の設定、計画、製作、成果の評価を行う活動。7月と同じ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの問題に対する考えや解決法 	<p>身の回りにある類似するものを提示し、多角的な視点からの見方、考え方を促す。</p>	<p>自分の意見や思いを深めるために、類似するものを比較する。</p>
家庭	<p>よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けた力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとの問い➡これに対する自分の想いや考えをペア、グループで伝え合う。➡考えを再度まとめる。自分と同じ、又は異なる意見を聞き、共感、発見し、メモする➡考えを広げ、深める ・課題の決定➡計画➡実践➡振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活を目指した題材に対する自分の想いや考え 	<p>適切な事例を適切なタイミングで示す</p>	<p>学習内容を生徒自身の生活や体験と結びつける。</p>
音楽	<p>・音楽の様々な要素を感じ取り、想いをもって表現できる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の活動で、音楽を聴いて自分の感想を言う。その中で、音楽を構成する様々な諸要素(リズム、強弱、音色等)を感じ取り、自分が感じたことはどの要素のどのようなどころから感じたのかを説明する。 ・歌やリコーダー等でどう歌いたいのか、どのように演奏したいのかを考え、自分の想いを表現できるように練習し、発表する。 ・合唱をクラスで練習する中で、こんな表現で歌う、ここはこんな場面だからこう表現するなど、想いをもって表現する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞に対する自分の感想(音楽的諸要素を用いて) ・思いをのせた歌や楽器の音 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えるヒントになる教材の提示、適宜、生徒の考えを整理する声掛け、比較を用いた授業の展開、グループワークを取り入れる。 	<p>自由な意見が出る問いかけや雰囲気作り、身の回りのことと結びつける➡例えば、創作の授業(チャムのメロディをつくらう)</p>
保体	<p>・右記のことができる力</p>	<p>「保健分野」 ○たくさんの学習で工夫した活動が可能 ・ICT活用授業・実験・実習・グループ・仮説・発表・レポート</p> <p>「体育分野」 ○話す(聞く)書く活動がすべてではない。 【個人】器械体操、柔道、陸上、水泳 ➡種目によりさまざま、個人種目は扱いやすい。 【集団】球技等 ➡どんな表現方法でいつ、何を伝えようとするのか。それをどう評価していくのか。7月と同じ</p>	<p>身体表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識をきちんと教える ・指導のタイミング 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のチョイス ・指導のタイミング
美術	<p>・右記のことができる力</p>	<p>「対話による鑑賞の授業」 ・作品に対する自分の見方、感じ方や考え方を、他者とコミュニケーションし、対話を通して、個々の見方や価値意識を深めたり、広げたりすること。(これまでの美術鑑賞の授業は、作品についての解説や作家へのエピソードなど、美術史的な知識を教える傾向が見られ、生徒の感じ方や考え方が授業の中で十分に生かされなかった。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に対する自分の見方や価値意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり美術的な語彙を増やす。 ・しっかり美術的な知識をつける(教える)。 	
英語	<p>・学び合いができる力</p> <p>・話せる力(自分の意見をはっきりと話すことのできる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文内容 ➡自分たちの生活を振り返って意見を言う。 ・自分の考えをマッピングなどで見える化し、そのメモを基に話す。 ・領域統合的な活動 ➡読まない意見が言えない活動を仕組む。7月と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこと(好きなこと、習慣) ・読んだもの(日常的な話題や社会的な話題)に対する自分の考え(理由を含む) ・相手の希望や状況を踏まえた自分の考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングで思考を広げたり、友達や先生からのアドバイスを受けたりする。 ・目的・場面・状況の整理をする。(これが明確であると、生徒自身が話す内容を考えることができるため) ・友達の見たと比べて、自分の考えや英文を再構築する。 	<p>意見交換をするだけでなく、中間指導が必要だと考える。</p>